

平成30年度第12回

地域連携推進機構運営会議（メール会議） 議事次第

日 時：平成31年1月25日（金）（メール送信日）～1月29日（火）（意見等期限日）

【議題】

<審議事項>		資料番号
1	2020年度概算要求書（機能強化促進分等）の提出について	審議1
2	平成31年度公開授業の実施について	審議2

○審議1資料

- ・ 2020年度概算要求書（アクティブ・シンクタンク）
- ・ 2020年度概算要求書（地域貢献循環型プラットフォーム）

○審議2資料

- ・ 平成31年度公開授業の実施について

※参考資料

- ・ 地域連携推進機構運営会議 委員名簿（平成30年10月12日時点）（参考資料1）

※今後の日程

- ・ 第13回（メール） … 2月8日（金）以降
- ・ 第14回 … 2月22日（金） 13：30～15：30 於：本部管理棟 2階 第2会議室
- ・ 第15回 … 3月22日（金） 13：30～15：30 於：本部管理棟 4階 第1会議室

様式〔参考・所要額調1〕

【戦略3—1+3—10】

2020平成3130年度 教育研究活動（取組）所要額調【参考資料】

重点支援	①					
法人名	琉球大学	法人番号	82	戦略番号	3	取組番号
						1110
戦略名	協働（交流と参画）を核とした産学官連携システムの構築による人材育成					
取組名	沖縄型「アクティブ・シンクタンク」としての産学官民協働による実践型教育システムの構築					
取組の概要	本学の有する教育研究資源と地域の有する多様な人材や資源を合わせて産学官民協働による人材育成プログラムを構築し、地域が抱える課題の解決に向けともに考え、行動する「アクティブ・シンクタンク」として地域創生や地域イノベーションの推進に資する人材の育成を目指す。					
実施主体	地域連携推進機構、グローバル教育支援機構、教育学部、附属小中学校、教職大学院、沖縄県、沖縄県内自治体、沖縄産学官協働人財育成円卓会議、県・市町村教育委員会、沖縄産学官イノベーション創出協議会					
計画期間	平成28年度～平成33年度（6年）					
概算要求額	平成 <u>3031029</u> 年度予算額 <u>382,636</u> 17628,134千円 <u>2020</u> 平成 <u>313130</u> 年度概算要求額 <u>383,636</u> 32,744千円 （事業実施経費総額 <u>214,195</u> 212,087千円）					

（1）目的・目標

本学が「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」として、学内資源を有効に活用しつつ、地域の企業や自治体等のニーズに応えた人材を育成するため、本学の有する教育研究資源と地域の産業界や自治体、NPO等の有する多様な人材や資源を合わせて産学官民連携による人材育成プログラムを構築し、地方創生を担い、地域イノベーションの推進を支える人材を育成する。

このため、地域連携推進機構を新設し、地域の課題をともに考え、その解決のために必要な方策を実施できる人材育成策を考え実施する「アクティブ（行動する）・シンクタンク」となることを目指す。また、COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業」、COC+事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」及び「トビタテ！留学JAPAN」等の地域協働事業の枠組みを活かし、地域とともに地域を支える人材の育成に取り組み、インターンシップへの参加など、学生が地域との繋がりを持てる機会を拡充し、人材の地元定着化に取り組む。

さらに、多くの有人離島を抱える沖縄県の課題を克服するため、サテライトキャンパスを活用して離島における高等教育の機会を提供し、多様な学習ニーズへの対応や学び直しの機会の充実を図り、地域社会を支える人材の質の向上に繋がる取組を行う。また、地域の人材を指導できる実践力のある教員の養成、学校現場や児童生徒の実態に即した創造的な教育プログラム開発及び研究を実施する。

これらにより、地域ニーズに対応し、地域を支える人材をこれまでも増して効果的に育成するとともに、地域の人材の底上げにつなげ、地域イノベーションを支える基盤の強化を図る。また、地域志向型の教育研究を更に推進し、学内の教育・研究・地域貢献の3機能を更に強固に連携させ、本学の地域貢献機能の強化を図る。

（2）戦略における位置付け

本事業は、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指し、地域とともに地域の課題解決に資する人材育成プログラムを実施し、同時に学生が地域との繋がりを実感できるようインターンシップの実施などに取り組み、地域に貢献できる人材の育成と地域活性化を図るものである。

特に沖縄県は多くの有人離島を抱え、それぞれに課題を抱えているため、人口の多い島に拠点を設置し、評価指標を達成することで、離島での学習機会の充実、及びきめ細かい地域貢献の実現に寄与し、県内で唯一の総合大学である本学が「アクティブ・シンクタンク」となることの一助とする。

また、地域との連携に当たっては沖縄産学官人財育成円卓会議（以下、円卓会議）の枠組みを活用し、円卓会議において人材養成のための目的別プログラム開発を検討するワーキンググループを設置する。さらに、地方公共団体との協定等と併せてこれらに関する評価指標を達成することで築いた事業基盤の上に人材育成プログラムやインターンシップを実施することで、地域の人材の質の底上げや学生の地元定着に繋げ、ひいては地方創生や地域イノベーションの推進に寄与することができる。

（3）必要性

地域社会や地域産業は「人」により支えられており、その発展に貢献できる人材育成の必要性は論を待たない。「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」をめざす本学は、戦後地域の熱意に支えられ創設されて以来、Land-Grant Universityの理念に基づき、これまでも知識・技術を地域へ還元し地域を支える人材を育成してきた。

一方、急速な社会の変容に対応するには、人材の資質・能力の底上げが不可欠であり、「まち・ひと・しごと創生基本方針2017」・「経済財政運営と改革の基本方針2017」（平成29年6月9日閣議決定）においても「地域の中核的な産業の振興とその専門人材育成等に向けた」地方大学の取組が求められているように、これまで以上に地域との緊密な連携の下での人材育成や、大学既卒者を含めた社会人の学び直しの機会の充実を早期に実現する必要がある。本学の立地する沖縄県の振興基本計画「沖縄21世紀ビジョン」においても、「沖縄の基幹産業や今後の有望産業を担う「産業人材」、地域社会づくりを先導する「地域リーダー人材」を、県内の知的資源やアジアとのネットワーク等を活用して育成する。」こととしており、地域からの強い要望を受け、本学の地域貢献機能の早急な強化が求められている。

島嶼地域を含めた地域社会のニーズに応える地域協働事業の展開や特に高等教育機関のない離島での学習コミュニティづくり、産学官民協働人材育成システムの構築を図り、離島を抱える地域における人材育成プログラムを早急に確立し、また、インターンシップへの参加などの機会を通じた学生と地域との結びつきを強め、地域創生副専攻の拡充を含め人材の離島を含めた地元定着に取り組むことが必要である。

（4）全体計画

1）地域連携推進機構の機能強化

- ・地域連携推進機構で、人材育成プログラムの企画のため、国内外の先進事例を調査し、その成果を踏まえつつ、産学官民との協働による人材育成プログラムを構築した。平成29年度に地域づくり人材養成プログラム、高度専門職養成プログラム、政策形成能力強化プログラムを試行し、平成30年度から本格的に実施する。本プログラムの受講者からのフィードバックや講義への評価を受ける仕組みを併せて構築し、プログラムの修了が地域での人材の活躍に繋がるよう、人材の質を地域で認証する仕組みを、円卓会議とともに検討する。
- ・地域連携推進機構に、本事業を適切に運営するため、生涯学習推進担当と産学官連携担当の地域連携コーディネーター2名を配置した。更に事業の庶務を取りまとめ行う事務補佐員2名を配置した。さらに、地域連携推進担当の地域連携コーディネーター1名を配置した。

2）交流人材バンクの設立

- ・地域との連携を一層強化するため、地域連携推進機構内に交流人材バンクを設立し、円卓会議を構成する各機関・企業、地域連携を行う中間支援組織やNPO等から学外の人材を登用し、人材育成プログラムの改善やインターンシップの充実に向け学内の教職員との協働を一層図りやすくする。
- これらにより、地域の人材の質の底上げと学生の地元定着に向けた施策を地域とともに考え、ともに実行する「アクティブ・シンクタンク」として本学の地域貢献機能の一層の強化に取り組む。

・平成28年度（実績）：

- ①地域連携推進機構に、本事業を適切に運営するため、地域連携コーディネーター2名を配置した。
- ②目的別プログラムを開発するために、沖縄産学官協働人材育成円卓会議の下にワーキンググループ（WG）の設置要項を策定し、それに基づき、3つのWG（①政策形成能力強化分野、②地域づくり人材養成分野、③高度専門職養成分野）を立ち上げた。
- ③政策形成能力強化分野及び地域づくり人材養成分野に関するニーズ調査として、行政、外郭団体、高等教育機関、民間人材育成機関、民間企業、金融機関を対象とした「沖縄人材育成基礎調査」を実施し、アンケート及びヒアリング（合計70件）を行った。調査結果を踏まえ、地域の団体、行政、産業界等からのニーズに沿った6つの目的別プログラム案を開発した。
- ④高度専門職養成分野においては、情報セキュリティ分野のニーズを把握すべく、企業・団体等（行政機関、教育機関、情報通信関連業界及び団体、小売・物流業界、観光業界、金融機関、医療機関）を対象とするヒアリング調査（合計16件）を行った。調査結果に対する現状・課題分析を行い、調査結果として情報セキュリティ高度専門職人材育成のフレームワークとして整理した。

・平成28年度（実績）：

- ①地域連携推進機構に、本事業を適切に運営するため、地域連携コーディネーター2名を配置した。
- ②目的別プログラムを開発するために、沖縄産学官協働人材育成円卓会議の下にワーキンググループ（WG）の設置要項を策定し、それに基づき、3つのWG（①政策形成能力強化分野、②地域づくり人材養成分野、③高度専門職養成分野）を立ち上げた。
- ③政策形成能力強化分野及び地域づくり人材養成分野に関するニーズ調査として、行政、外郭団体、高等教育機関、民間人材育成機関、民間企業、金融機関を対象とした「沖縄人材育成基礎調査」を実施し、アンケート及びヒアリング（合計70件）を行った。調査結果を踏まえ、地域の団体、行政、産

業界等からのニーズに沿った6つの目的別プログラム案を開発した。

④高度専門職養成分野においては、情報セキュリティ分野のニーズを把握すべく、企業・団体等（行政機関、教育機関、情報通信関連業界及び団体、小売・物流業界、観光業界、金融機関、医療機関）を対象とするヒアリング調査（合計16件）を行った。調査結果に対する現状・課題分析を行い、調査結果として情報セキュリティ高度専門職人材育成のフレームワークとして整理した。

・平成29年度（実績）：

①国内外の事例調査を踏まえた人材育成プログラムを検討し、WGの意見や地域円卓会議から得られた地域ニーズを反映する形で、人材育成プログラムの試行プログラムを実施した。

②地域づくりのための人材養成プログラムは、大学と地域が連携したコーディネート及びファシリテート能力の向上、フィールドワークを通して地域課題を発見し解決できるプロセスの学修、持続可能なプロジェクトを実施する資金調達方法などを習得できる試行プログラムを実施した。

③高度専門職養成プログラムは、情報セキュリティ分野で学外の取り組みと連携し個別プログラムを試行実施した。また、新たな産業分野として、医学部や附属病院を有する総合大学としての本学の強みを生かした医工連携プログラムを検討した。

④政策形成能力強化プログラムは、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、各広域市町村圏事務組合などと連携した行政職員や新しい公共の担い手への人材育成プログラムを試行プログラムにて実施した。

⑤実践力教員養成プログラムは、離島僻地地域における実践力のある教育人材の確保と中堅リーダーの育成を目的として、教育学部及び教職大学院と連動したICTの活用による教員養成プログラムを八重山・宮古・沖縄周辺離島において実施した。

⑥円卓会議からの助言、WGからの意見を反映させ、地域づくりのための人材養成プログラムや高度専門職養成プログラム、政策形成能力強化プログラム等の目的別の試行プログラムの受講生からのフィードバックを得ながら、PDCAサイクルを実施した。

⑦平成30年度の人材育成プログラムの本格稼働に向けた準備を行い、地域認証システムを検討し、交流人材バンクのあり方を検討した。

・平成30年度（実績）：

①WGの意見や地域円卓会議から得られた地域ニーズを反映する形で、人材育成プログラムを実施した。

②地域づくりのための人材養成プログラムは、社会人向けに試行的に実施した人材育成プログラムを、学生が受講できるカリキュラムとして地域創生副専攻の授業科目として登録し、大学と地域が連携した本格的な人材育成プログラムを実施した。

③高度専門職養成プログラムは、情報セキュリティ分野における人材育成プログラムを本格実施した。これまで本WGにおける継続的な協議の中で、構成員である一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会（以降、CCDS）と連携し、総務省のサイバーセキュリティタスクフォース内で検討が行われている「認証マークの付与と推奨」といったIoTセキュリティ認証制度に合わせたIoTセキュリティ検定人材育成講座のカリキュラムの開発を進めてきた。平成30年度は、公開講座として本プログラムのモデル講義を実施した。医工連携プログラムについては、沖縄型医工連携基礎プログラムとして公開講座として実施した。医工連携プログラムについては、関係機関との連携を図りながら人材育成プログラムとして試行する。

④政策形成能力強化プログラムは、県内の行政及び各支援機関と連携した人材育成プログラムを、学生が受講できるカリキュラムとして地域創生副専攻の授業科目として登録し、公務員や地域づくりを担う団体職員、学生が共に学修できる本格的な人材育成プログラムを実施した。

⑤実践力教員養成プログラムでは、本島及び離島僻地地域における実践力のある教育人材の確保と中堅リーダーの育成を目的として、教育学部及び教職大学院との連動を主体としながら、沖縄県教育委員会、市町村教育委員会との連携を進め、これからの教育改革に必要な教員の資質能力及び多様な教育方法を取り入れた授業改善・学校改革能力の育成に資する教員養成プログラムを実施した。

⑥円卓会議からの助言、WGからの意見を反映させ、地域づくりのための人材養成プログラムや高度専門職養成プログラム、政策形成能力強化プログラム等の目的別プログラムの受講生からのフィードバックを得ながら、PDCAサイクルを実施した。

⑦平成30年度から人材育成プログラムを本格稼働し、円卓会議との連携を密にしながら地域認証システムを導入した。交流人材バンクの運営を開始する。

・平成31年度：

- ①円卓会議からの助言、WGからの意見を反映させ、地域づくりのための人材養成プログラムや高度専門職養成プログラム、政策形成能力強化プログラム等の目的別プログラムの受講生からのフィードバックを得ながら、PDCAサイクルを実施する。
- ②本格稼働した人材育成プログラムを受講する社会人には、本学学長が許可し単位を与える制度である「科目等履修生」として登録する
- ③円卓会議との連携を密にしながら地域認証システムを導入、交流人材バンクの運営により人材育成プログラムの改善、地域企業でのインターンシップの拡充を実施する。
- ④円卓会議との連携を密にしながら地域認証システムを導入、交流人材バンクの運営により人材育成プログラムの改善、地域企業でのインターンシップの拡充をもつちする。
- ⑤実践力教員養成プログラムでは、新指導要領の本格実施（32年度）を前に、新たに小学校に導入される教科・外国語やプログラミング教育の実施に向けた教員研修等の支援や、現場において、実現困難が予想される「主体的・対話的で深い学び」に対応したプログラムの創造を行い、市町村教育委員会との連携・協働により、さらなる授業改善・学校改革能力の育成に貢献する。

・2020平成32年度～2021平成33年度：

- ①WGの意見や地域円卓会議から得られた地域ニーズを反映する形で、人材育成プログラムのプログラムを実施・発展させ、目的別プログラムの受講生からのフィードバックを得ながら、PDCAサイクルを実施する。
- ②随時人材育成プログラムを拡大し、円卓会議との連携を密にしながら地域認証システムによる地域における各分野の中核人材を創出する。
- ③交流人材バンクの本格的な運営を開始させ、沖縄地域における人材育成拠点を構築し、全国のモデルとなる取り組みを実施する。
- ④教育学部及び教職大学員は、実践力教員養成プログラムによって育成された人材とともに、さらなる授業改善・学校改革能力育成プログラムを創造し、実施する。

（5）平成31-0-29年度時点の構想から変更・充実した点

地域連携推進機構が「アクティブ・シンクタンク」となるべく、地域との協働に基づき事業を実施する体制を当初より構築し、更に交流人材バンクの設立により協働の仕組みを体制として、本学の創設以来の地域貢献の精神を組織にも反映させる。

地域連携推進担当の地域連携コーディネーターは、多様な地域ニーズに反映する形で目的別プログラムの充実を図り、産学官民が連携して地域の人材の資質・能力の底上げに取り組むこととした。

実践力教員養成プログラムでは、新指導要領の本格実施（32年度）前年の状況を鑑み、新たに小学校に導入される教科・外国語やプログラミング教育の実施に向けた教員研修等の支援、及び新指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」を意識したプログラムを加味した。

教育委員会と大学が協働して「教員としての資質能力の向上に関する指標」を教特法改正によって求められている状況を鑑み、「沖縄県教育委員会、市町村教育委員会」との連携を加味した。また、「IGT」から、教育現場が求める「授業改善・学校改革能力の育成」（IGTを含む）とし、さらに充実させた。

事務補佐員については、「アクティブ・シンクタンク」の構築に伴い、目的別プログラムにて受講生から得られるフィードバックの取り纏め行う運営サポート、自治体との連携拠点及び連携協定の構築のためのサポートなどに取り組むこととした。

（6）将来的に教育研究組織整備へ繋がる構想内容

本取組は、島嶼地域における地域創生と地域活性化に向けて、第3期中期目標期間の当初に本学に設置した「地域連携推進機構」の機能を学内外へ強化し、沖縄産学官協働人材育成円卓会議を活用した産学官連携の人材育成システムを構築するものである。本学の資源が地域と協働（交流・参画）することにより、地域の新たな課題・ニーズを解決するための学内組織整備や地域との資源の共有による新たな教育研究組織を整備する展開へと繋がる構想である。

【備考】

法人番号：82 法人名：琉球大学

機能強化経費「機能強化促進分等」所要額積算内訳（教育研究活動（取組））【参考資料】

【取組番号：10 取組名：沖縄型「アクティブ・シンクタンク」としての産学官民協働による実践型教育システムの構築】

1. 2020年度運営費交付金等所要額

区 分	金 額
	千円
2020 度 事 業 実 施 経 費 総 額	38,636
連 携 相 手 先 負 担 額	
大 学 法 人 負 担 額	38,636
学 内 負 担 額	5,000
機能強化促進分等所要額	33,636
法人運営活性化支援分所要額	0

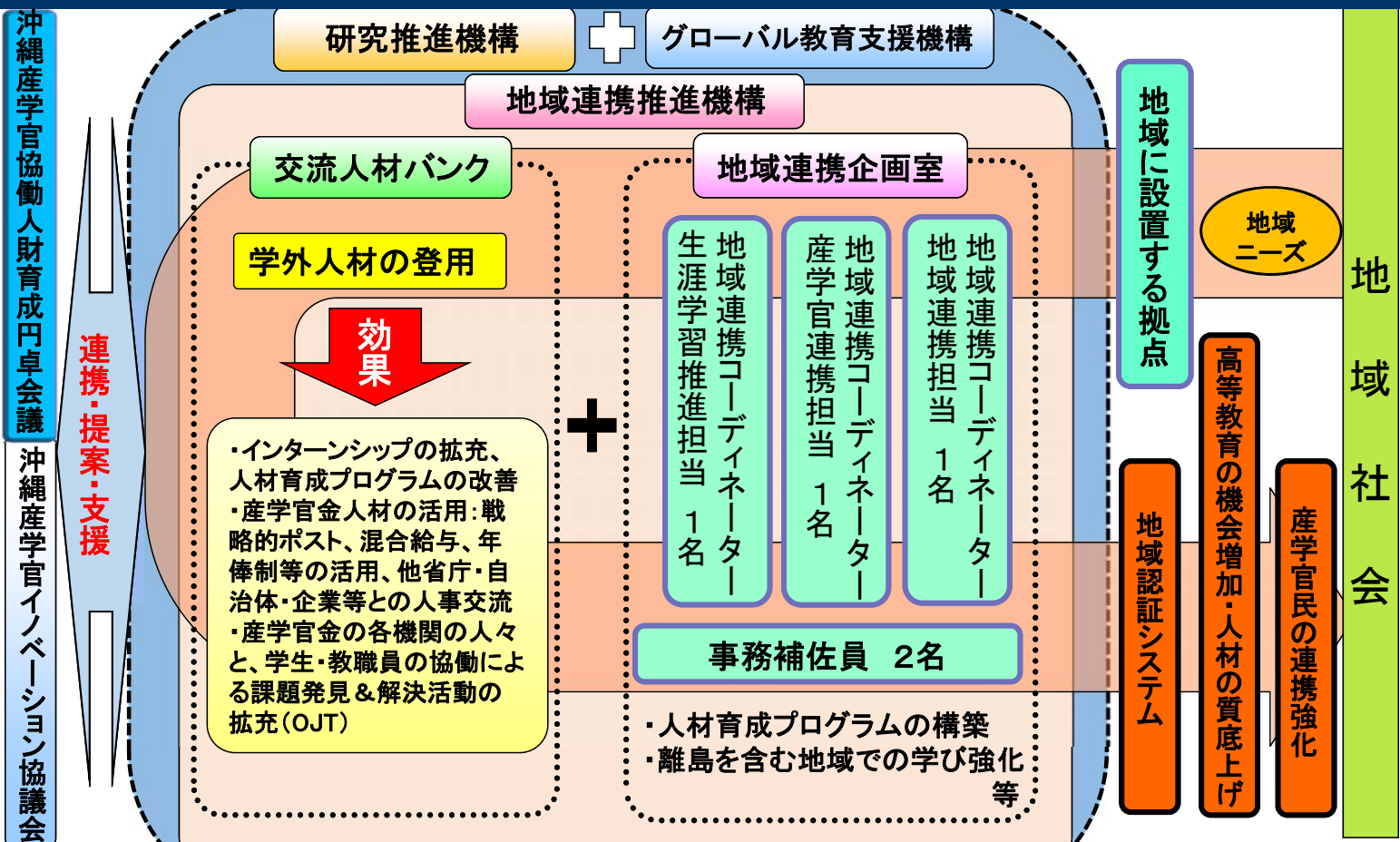
【2020年度大学法人負担額積算内訳】

経 費 区 分	金 額	学 内 負 担 額	機能強化促進分等 (法人運営活性化支援 分含む) 所要額	積 算 内 訳
	千円	千円	千円	
(人 件 費)	29,600	1,800	27,800	○地域連携コーディネーター ・特命教員1名(産学官連携担当) 9,000 千円 ・特命教員1名(生涯学習推進担当) 8,500 千円 ・特命教員1名(地域連携推進担当) 8,500 千円 ○事務運営担当 ・事務補佐員1名(地域連携推進機構) 1,800 千円 ・事務補佐員1名(教育学部) 1,800 千円 ※
(運 営 費)	9,036	3,200	5,836	○国内旅費 ・プログラム作成打合せ旅費(のべ10人×@100千円) 1,000 千円 ・実践力教員養成プログラム旅費(のべ4人×@100千円) 400 千円 ※ 〔うち、学内負担〕 400 千円 ・実践力教員養成プログラム旅費(のべ40人×@35千円) 1,400 千円 ※ 〔うち、学内負担〕 1,400 千円 ・実践力教員養成プログラム旅費(のべ40人×@5千円) 200 千円 ※ 〔うち、学内負担〕 200 千円 ・招聘旅費(のべ4人×@50千円) 200 千円 ・ワーキング委員等交通費(のべ60人×@1,200円) 72 千円 ○謝金 ・プログラム検討委員謝金 (3人×3プログラム×4回×@5千円×2時間) 360 千円 ・人材育成プログラム講師謝金 (10人×3プログラム×1回×@15千円×2時間) 900 千円 ○役務費 ・テープ起こし(12回×@40千円×2時間) 960 千円 ○印刷費 〔うち、学内負担〕 394 千円 100 千円 ※ ○消耗品及び備品費 ・消耗品及び備品費 650 千円 〔うち、学内負担〕 600 千円 ※ ・実践力教員養成プログラム教材開発用消耗品 200 千円 ○会議費 ・会場借上(1回×@200千円) 200 千円 ○管理費 ・実践力教員養成プログラム教材開発用管理費 500 千円 ※ ○会議費 ・会場借上(3回×@200千円) 600 千円 ○管理費(光熱水料) 1,000 千円
(設 備 費)	0	0	0	
計	38,636	5,000	33,636	

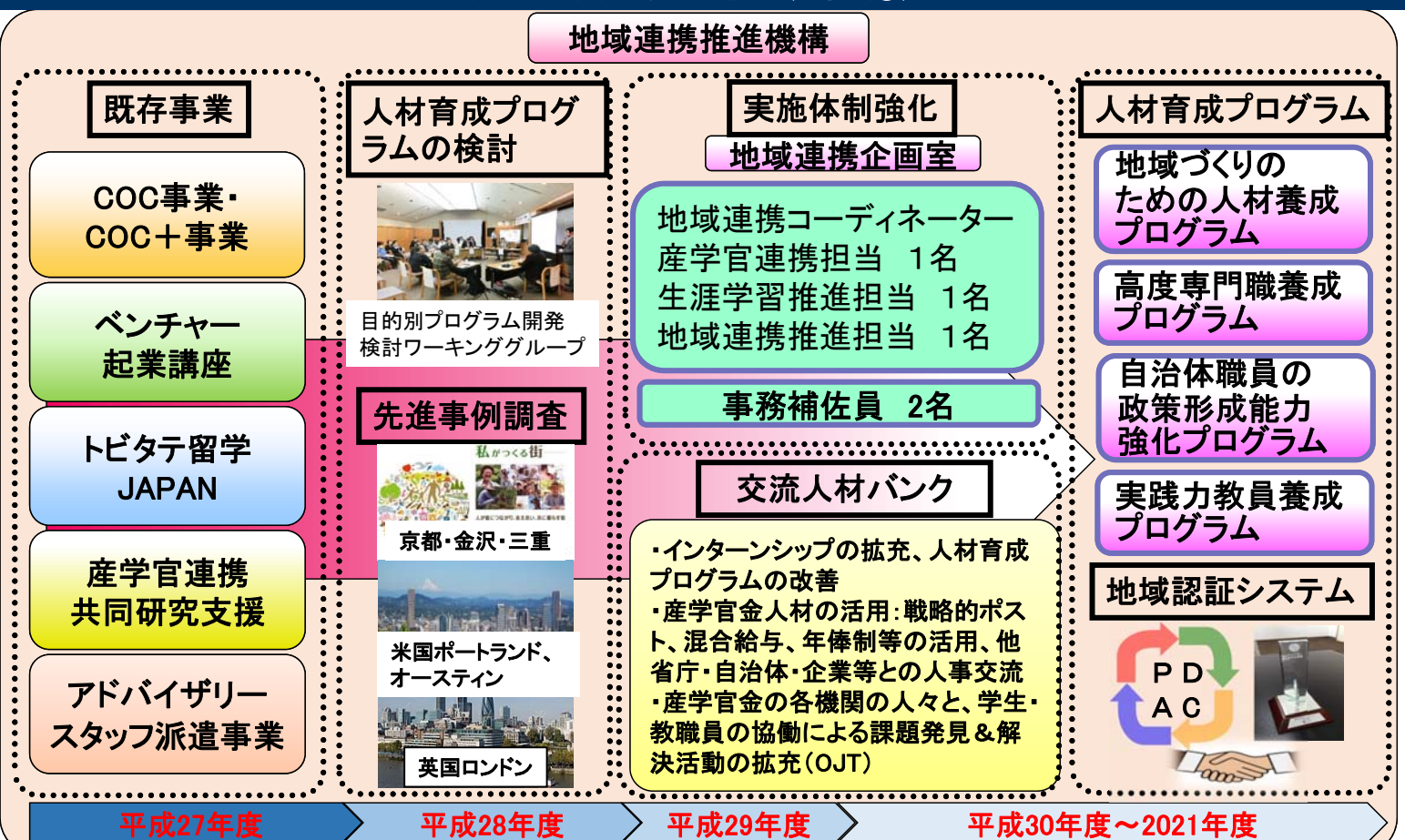
積算内訳欄外の※印は学内負担額の内訳である。

2. 計画期間中における年度別実施経費

区 分	28' 予 算	29' 予 算	30' 予 定	31' 予 定	32' 予 定	33' 予 定	計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
事業実施経費総額	27,977	33,134	37,176	38,636	38,636	38,636	214,195
連携相手先負担額							0
大学法人負担額	27,977	33,134	37,176	38,636	38,636	38,636	214,195
人 件 費	14,920	21,300	29,442	29,600	29,600	29,600	154,462
学 内 負 担 額	0	0	1,642	1,800	1,800	1,800	7,042
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	14,920	21,300	27,800	27,800	27,800	27,800	147,420
機能強化促進費							0
運 営 費	13,057	11,834	7,734	9,036	9,036	9,036	59,733
学 内 負 担 額	5,000	5,000	3,358	3,200	3,200	3,200	22,958
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	8,057	6,834	4,376	5,836	5,836	5,836	36,775
機能強化促進費		0					0
設 備 費	0	0	0	0	0	0	0
学 内 負 担 額	0	0	0	0	0	0	0
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	0	0	0	0	0	0	0
機能強化促進費		0	0				0
学 内 負 担 額 計	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
機能強化促進分等所要額計	22,977	28,134	32,176	33,636	33,636	33,636	184,195
機能強化促進費所要額計		0	0				0



「アクティブ・シンクタンク」の構築により地方創生や地域イノベーションの推進に寄与する。



「アクティブ・シンクタンク」の機能強化により人材育成プログラムを加速する。

沖縄型「アクティブ・シンクタンク」としての産学官民協働による
実践型教育システムの構築（工程表②）

法人番号:82
法人名:琉球大学

地域連携推進機構

取組内容

○「地域連携推進機構」の設置
既存の部局で個別に行っていた
地域貢献を一元的に実施する。

○地域連携コーディネーター2名
（産学連携担当、生涯学習推進
担当）を平成28年度に配置。

○人材育成プログラム

・国内外の先行事例調査、
人材育成プログラムの検討

・人材育成プログラムの試行

・人材育成プログラムの本格実施

・地域認証システムの構築

○「交流人材バンク」の設立

学外機関の人材を登用し学内の教
職員との協働を一層図る

平成28年度

平成29年度

平成30年度

平成31年度

2020年度

2021年度

「アクティブ・シンクタンク」として本学の地域貢献機能の強化

（地域に設置する連携拠点数:6箇所）

（地方公共団体との包括連携協定数:6件）

地域ニーズを取り込み人材育成プログラムを構築

検討

試行

（人材育成目的別プログラム実施件数:3件/年以上）

（受講満足度アンケート:75%以上）

本格実施

円卓会議とともに検討

人材育成プログラムの改善、地域企業でのインターンシップの充実

「アクティブ・シンクタンク」の構築により島嶼・過疎地域を含めた地域の「人材の質の底上げ」及び連携緊密化を行い、
地方創生や地域イノベーションの推進に寄与する。

２０２０平成３１年度 教育研究活動（取組）所要額調【参考資料】

重点支援	①						
法人名	琉球大学	法人番号	82	戦略番号	3	取組番号	11
戦略名	協働（交流と参画）を核とした産学官連携システムの構築による人材育成						
取組名	地域貢献循環型プラットフォーム構築に向けた調査研究事業 － Society5.0に期待される新たな社会の実現に向けた人材育成 －						
取組の概要	地域連携推進機構が中核となり構築してきた産学官民協働による実践型教育システムの強化を図るため、産学官等の保有するデータ活用による地域ニーズの特性分析や地域課題の抽出を行い、地域産業の振興を担う人材育成の高度化に繋げることで、島嶼地域における地域創生と地域イノベーションのプラットフォームを構築する。						
実施主体	地域連携推進機構						
計画期間	平成31年度～平成33年度（3年）						
概算要求額	平成31年度予算額 13,940千円 2020平成31年度概算要求額 13,940千円						
(事業実施経費総額 51,420千円)							

(１) 目的・目標

知識基盤社会の到来にみられるように社会環境の変化が急激に進んでおり、第４次産業革命を支える基盤技術である人工知能・ビッグデータ・IoT・セキュリティは、様々な場面で活用されあるいは必要とされている。第５期科学技術基本計画（平成２８年度～３２年度）において定義された超スマート社会（Society5.0）では、ICTの進化が生み出すデータ利用の高度化に伴い、人々とデータの共有・利用を通じて新しい価値を創造する「データ駆動型社会」を構想している。

こうした時代の要請は、この超スマート社会での新しいビジネスモデル構築であり、そのために、膨大なデータから有用な知見を引き出し、新たな価値を創造し、あるいは最適な意思決定を支えるデータ分析力を備えた人材育成が求められており、データ中心科学としてのデータサイエンスが重要となっている。

一方、島嶼県である沖縄県においては、顕著な地理的不利性の結果引き起こされる高い物流コストが生じており、その根幹となる交通インフラ問題は、直接的あるいは間接的に社会全般に影響しているため、物流に拠らない産業創出が必要とされている。データ活用による新産業創出・地域課題解決は、沖縄県の特異性に適した取組であるといえる。また、島嶼モデルは内陸孤島地域のパイロットモデルでもあり、沖縄県内での取組が汎化され広く適用される意義を持つ。

本事業では、本学が取り組んできた産学官連携による人材育成プログラムの開発体制等を基盤に、沖縄県産業界及び自治体、沖縄県民との連携の下、データから価値を創造し、地域課題解決に繋げるためのプラットフォーム構築に向けたフィージビリティ・スタディを実施する。

(２) 戦略における位置付け

本事業は、本学における戦略「協働（交流と参画）を核とした産学官連携システムの構築に向けた地域創生」における、これまでの産学官連携協働体制を基盤としつつ、データサイエンス研究を基盤とした分析に基づく、新たな地域ニーズの特性や地域課題の抽出を可能とする体制を強化し、超スマート社会の実現に寄与する地域課題解決型プラットフォームの構築に繋げることで、島嶼地域における地域創生と地域イノベーションに向け、地域の声を十分に汲み取りながら、産学官民協働による実践型の教育システムの構築を目指すものである。

(３) 必要性

本学では「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」として、本学の有する教育研究資源と地域の産業界や自治体、NPO等の有する多様な人材や資源を合わせて産学官民連携による人材育成プログラムを構築し、地方創生を担い、地域イノベーションの推進を支える人材を育成するため、平成２８年度から地域連携推進機構を設置し、「アクティブ（行動する）・シンクタンク」として、地域の課題をとともに考え、その解決のために必要な様々な方策を実施してきた。

さらに、超スマート社会で想定されるデータ駆動型社会では、文系理系問わず様々な分野へ数理工学の応用展開を図り、それぞれの分野でデータから価値を創造し、ビジネス課題・地域課題に応えを出すことができる人材や高度な科学技術イノベーション力による知の資産の創出（ブロックチェーン技術による地域活性等）が期待されている。

第4期中期目標期間に向けて、地域社会からの様々な期待を踏まえた、有機的な地域貢献機能の発揮に向けた大学となるため、データサイエンス研究による「アクティブ・シンクタンク」の機能強化により「地域貢献型大学」として方策を着実に推進しつつ、新たな組織・体制の在り方を検討する必要がある。

（4）全体計画

- ・平成28年度（実績）：該当なし
- ・平成29年度（実績）：該当なし
- ・平成30年度：該当なし
- ・平成31年度：
調査・研究チームの編成
沖縄県内産業等におけるデータ利活用の課題調査（業種別）
沖縄県の特異性を活かした新産業等創出の検討
- ・~~2020平成32~~年度：
地域課題解決型人材養成プログラムへのデータ利活用導入
人材育成プログラムのPDCAのデータ分析活用
- ・~~2021平成33~~年度：
地域課題解決型人材養成プログラムの推進
第4期中期目標期間を見据えた有機的な地域貢献機能強化に向けた体制の在り方検討

（5）平成30年度時点の構想から変更・充実した点

該当なし。

（6）将来的に教育研究組織整備へ繋がる構想内容

本取組を通じて、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」というビジョンの達成に向けて、本学の地域連携・貢献機能をどのように強化させていくか検討し、沖縄県における産学官民協働による地域課題解決のプラットフォームを構築し、超スマート社会に期待される新たな社会の実現に向けた人材育成に繋げる構想である。

【備考】

法人番号：82 法人名：琉球大学

機能強化経費「機能強化促進分等」所要額積算内訳（教育研究活動（取組））【参考資料】

【取組番号：11 取組名：地域貢献循環型プラットフォーム構築に向けた調査研究事業
— Society5.0に期待される新たな社会の実現に向けた人材育成 — 】

1. 平成31年度運営費交付金等所要額

区 分	金 額
	千円
平成31年度事業実施経費総額	17,140
連 携 相 手 先 負 担 額	0
大 学 法 人 負 担 額	17,140
学 内 負 担 額	3,200
機能強化促進分等所要額	13,940
法人運営活性化支援分所要額	0

【平成31年度大学法人負担額積算内訳】

経 費 区 分	金 額	学 内 負 担 額		積 算 内 訳
		学内負担額	機能強化促進分等 (法人運営活性化支援 分含む)所要額	
	千円	千円	千円	
(人 件 費)	13,200	1,700	11,500	特命教員（1人×7,500千円） 7,500 千円 特命職員（クロスアポイントメント制度） 4,000 千円 事務補佐員人件費（1人×1,700千円） 1,700 千円 ※
(運 営 費)	3,940	1,500	2,440	○国内旅費 940 千円 ・国内旅費（2人×80千円×2回） 320 千円 ・招聘旅費（1人×50千円×6回） 300 千円 →先行事例調査旅費（80千円×4回） 320 千円 ○消耗品費及び備品費 3,000 千円 （うち学内負担 1,500 千円） ※
(設 備 費)				
計	17,140	3,200	13,940	

積算内訳欄外の※印は学内負担額の内訳である。

2. 計画期間中における年度別実施経費

区 分	31' 予 定	32' 予 定	33' 予 定	計
	千円	千円	千円	千円
事業実施経費総額	17,140	17,140	17,140	51,420
連携相手先負担額				0
大学法人負担額	17,140	17,140	17,140	51,420
人 件 費	13,200	13,200	13,200	39,600
学 内 負 担 額	1,700	1,700	1,700	5,100
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	11,500	11,500	11,500	34,500
機能強化促進費				0
運 営 費	3,940	3,940	3,940	11,820
学 内 負 担 額	1,500	1,500	1,500	4,500
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	2,440	2,440	2,440	7,320
機能強化促進費				0
設 備 費	0	0	0	0
学 内 負 担 額	0	0	0	0
機能強化促進分等(法人運営活性化支援分含む)	0	0	0	0
機能強化促進費				0
学 内 負 担 額 計	3,200	3,200	3,200	9,600
機能強化促進分等所要額計	13,940	13,940	13,940	41,820
機能強化促進費所要額計				0

戦略3：協働（交流と参画）を核とした産学官連携システムの構築による人材育成

地域貢献循環型プラットフォーム構築に向けた調査研究事業

背景①

データサイエンスに係る社会的概況

知識基盤型社会の到来にみられるように、社会環境の急激な変化が進んでいる。第4次産業革命を支える基盤技術である人工知能・ビッグデータ・IoT・セキュリティの活用が必要とされている。

日本における概況

第5期科学技術基本計画において定義された超スマート社会では、ICTの進化が生み出すデータ利用高度化に伴い、データの共有・利用を通じて新しい価値を創造するデータ駆動型社会を構想。

背景②

未来投資戦略2018

AI時代には、高い理数能力でAI・データを理解し、使いこなす力に加えて、課題設定・解決力や異質なものを組み合わせる力などのAIで代替しにくい能力で価値創造を行う人材が求められる。教育改革と産業界等の人材活用の面での改革を進めるとともに、「人生100年時代」に対応したリカレント教育を大幅に拡充。

統合イノベーション戦略

AI関連のリカレント教育機会の拡大(第四次産業革命スキル習得講座の拡充)や個々の産業に適したソリューションを提供できる人材の育成(大学等におけるリカレント教育プログラムを開発普及)

背景③

沖縄県におけるデータサイエンス

顕著な地理的不利性の結果引き起こされる高い物流コストが生じており、物流に拠らない産業創出が必要。データ活用による新産業創出・地域課題解決は、沖縄県の特異性に適した取組である。島嶼モデルは内陸孤島地域のパイロットモデルでもあり、沖縄県内での取組が汎化され広く適用される意義をもつ。さらに、観光統計調査、パーソントリップ調査、全島Wi-Fiプロジェクトや、スマートシティ開発等に向けたデータ収集等が進められており、豊富なビッグデータを保有。

本学のこれまでの取組（産学官民の強固な連携体制）

沖縄産学官協働人材育成円卓会議（議長：学長）

県内の産業界、高等教育機関、行政機関が一体となって、沖縄県に内在する諸問題の発掘と解決策の模索、また、新たな価値を創造できる人材や国際性豊かな人材の育成・育成環境創出等を実施。県内における人材育成やこどもの貧困問題等の地域課題解決に向けた施策について協議。

沖縄産学官イノベーション創出協議会（会長：産学官連携副理事）

沖縄地域の産業振興を推進し、イノベーション創出を図ることを目的に、沖縄地域の産学官関係者が参加するネットワークを形成し、産学官連携に資する情報提供、海外を含めた産学官連携による産業交流・企業支援等を推進。各部会（企画・調査・サポーター・広報）の取組を通じて、沖縄県内の施策マップ作成や、中小企業等のサポートを推進。

本学のこれまでの取組（地域に根ざした人材育成）

目的別人材育成プログラムの開発（地域連携推進機構）

地域社会・産業の発展に繋がるプログラム分野として「地域づくり人材養成分野」「高度専門職養成分野」「政策形成能力強化分野」の3分野を設定し、プログラムを試行中。島嶼地域交流ファシリテーター養成、情報セキュリティ人材養成、政策立案能力開発プログラム等のカリキュラムを実施し、県内のニーズを踏まえた特色ある人材養成事業を実施。

サテライトキャンパスを拠点とした学びの提供

県内の島嶼部を含む6箇所にサテライトキャンパスを設置し、「サテライト教育システム」を活用した双方向(多方向)型の教育、対面式での出前講座、また、シンポジウム・フォーラム・ワークショップ等を実施し、地域の人々との交流を通じた学びの機会を拡充。

超スマート社会の実現に寄与する地域課題解決型プラットフォームの構築

地域連携推進機構を中核とし「アクティブ(行動する)・シンクタンク」として、地域の課題をとともに考え、その解決のため、地域の産業界や自治体、NPO等と連携し、産学官民連携による人材育成プログラムを構築し、地方創生を担い、地域イノベーションの推進を支える人材を育成。

超スマート社会で想定されるデータ駆動型社会に向けて、文系理系問わず様々な分野でデータから価値を創造し、ビジネス課題・地域課題に応えを出すことができる人材や高度な科学技術イノベーション力による知的資産の創出に繋げる人材を育成するため、これまでに構築した産学官民連携体制や人材育成ノウハウを基盤とした地域課題解決型プラットフォームを構築する。

「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」のビジョン達成に向け、
産学官民協働による地域貢献循環型プラットフォームの構築に繋げる

【審議２】
平成３１年１月２２日
生涯学習推進部門会議 承認

平成31年度公開授業部局別開講数

	全科目	人文社会学部	国際地域創造学部	教育学部	教育学研究科	理学部	工学部	医学部	農学部	地域連携推進機構	グローバル教育支援機構 共通教育運営部門	グローバル教育支援機構 キャリア教育部門
共通教育科目	24	5	5	0	0	11	2	0	0	0	0	1
専門科目	41	6	10	3	0	10	2	2	8	0	0	0
合計	65	11	15	3	0	21	4	2	8	0	0	1

平成31年度公開授業一覧

※黄色セルはサテライト配信予定

授業番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等
1	共通教育科目	平和論	前学期	火4	人文社会学部	世話人 阿部小涼	人文社会学部国際法政学科
2	共通教育科目	人間観と教育	前学期	月3	人文社会学部	寺石悦章	人文社会学部人間社会科
3	共通教育科目	人間関係論	前学期	月1	人文社会学部	田中寛二	人文社会学部人間社会学科
4	共通教育科目	インテンシブフランス語Ⅰ	前学期	火5、金5	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科
5	共通教育科目	スペイン語入門Ⅰ	前学期	水2	国際地域創造学部	鈴木正士	国際地域創造学部国際地域創造学科
6	共通教育科目	インテンシブスペイン語Ⅰ	前学期	火2、金2	国際地域創造学部	福地恭子、上地リリア	国際地域創造学部国際地域創造学科
7	共通教育科目	物理学入門Ⅰ	前学期	火2	理学部	安田 千寿	理学部物質地球科学科
8	共通教育科目	物理学Ⅰ	前学期	金2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科
9	共通教育科目	天体観測を通して学ぶ宇宙	前学期		理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科
10	共通教育科目	海洋の科学	前学期	水7	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科
11	共通教育科目	海洋の科学	前学期	火1	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科
12	共通教育科目	化学Ⅰ	前学期	月9	理学部	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科
13	共通教育科目	環境エネルギー計画	前学期	火5	工学部	堤 純一郎	工学部工学科
14	共通教育科目	海外キャリア形成入門	前学期		グローバル教育支援機構	遠藤 聡志 他	グローバル教育支援機構キャリア教育支援部門
15	専門科目	琉球史概論Ⅰ	前学期	月2	人文社会学部	豊見山和行	人文社会学部琉球アジア文化学科
16	専門科目	基礎労働法	前学期	火4	人文社会学部	戸谷義治	人文社会学部国際法政学科
17	専門科目	カウンセリング演習	前学期	木1	人文社会学部	田中寛二	人文社会学部人間社会学科
18	専門科目	エコツーリズム論・基礎	前学期	木3	国際地域創造学部	大島 順子	国際地域創造学部国際地域創造学科
19	専門科目	広告論	前学期	月2	国際地域創造学部	王 怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科
20	専門科目	観光マネジメント論	前学期	月5、木5	国際地域創造学部	桑原浩	国際地域創造学部国際地域創造学科
21	専門科目	経済学概論	前学期	木2	国際地域創造学部	越野 泰成	国際地域創造学部国際地域創造学科
22	専門科目	口頭英語表現Ⅰ(英語スピーチ)	前学期	月3	国際地域創造学部	宮平勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科

授業番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等
23	専門科目	社会人類学Ⅰ	前学期	木5	国際地域創造学部	稲村 務	国際地域創造学部国際地域創造学科
24	専門科目	理科教育法A〔1組〕	前学期	木6	教育学部	吉田 安規良	大学院教育学研究科 高度教職実践専攻
25	専門科目	授業技術	前学期	月5	教育学部	吉田 安規良	大学院教育学研究科 高度教職実践専攻
26	専門科目	生活科教育研究	前学期	火5	教育学部	白尾裕志	大学院教育学研究科 高度教職実践専攻
27	専門科目	熱力学	前学期	金4	理学部	前野昌弘	理学部物質地球科学科
28	専門科目	物理数学Ⅰ	前学期	木2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科
29	専門科目	海洋地質学	前学期	月3	理学部	古川雅英	理学部物質地球科学科
30	専門科目	物理化学Ⅱ	前学期	火3	理学部	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科
31	専門科目	熱帯生物科学概論	前学期	火5	理学部	山崎秀雄	理学部海洋自然科学科
32	専門科目	生態学・環境学	前学期	木1	農学部	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科
33	専門科目	作物学	前学期	水2	農学部	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科
34	専門科目	土壌環境科学	前学期	金3	農学部	金城 和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科
35	専門科目	森林微生物学	前学期	水2	農学部	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科
36	共通教育科目	平和論	後学期	火4	人文社会学部	世話人 阿部小涼	人文社会学部国際法政学科
37	共通教育科目	心の科学	後学期	月1	人文社会学部	田中寛二	人文社会学部人間社会学科
38	共通教育科目	インテンスフランス語Ⅱ	後学期	火2、金2	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	国際地域創造学部国際地域創造学科
39	共通教育科目	インテンススペイン語Ⅱ	後学期	火2、金2	国際地域創造学部	福地恭子、上地リリア	国際地域創造学部国際地域創造学科
40	共通教育科目	人間と物理学	後学期	水2	理学部	與儀 護	理学部物質地球科学科
41	共通教育科目	物理学入門Ⅱ	後学期	火2	理学部	安田 千寿	理学部物質地球科学科
42	共通教育科目	物理学Ⅱ	後学期	金2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科
43	共通教育科目	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ	後学期		理学部	松本 剛、宮里大八	理学部物質地球科学科
44	共通教育科目	琉球の自然保護	後学期	木5	理学部	横田昌嗣 他、約8名	理学部海洋自然科学科
45	共通教育科目	環境影響評価概論	後学期	火5	工学部	堤 純一郎	工学部工学科
46	専門科目	応用労働法	後学期	火4	人文社会学部	戸谷義治	人文社会学部国際法政学科

授業 番号	分類	授業科目名	学期	曜日 時限	開講学部	担当教員	担当教員の所属学部・学科等
47	専門科目	琉球史概論Ⅱ	後学期	木2	人文社会学部	大浜郁子	人文社会学部琉球アジア文化学科
48	専門科目	非行と犯罪の心理学	後学期	金1	人文社会学部	田中寛二	人文社会学部人間社会学科
49	専門科目	環境教育論	後学期	金2	国際地域創造学部	大島 順子	国際地域創造学部国際地域創造学科
50	専門科目	マーケティング入門	後学期	火6	国際地域創造学部	王 怡人	国際地域創造学部国際地域創造学科
51	専門科目	社会科学のためのゲーム論入門	後学期	水6	国際地域創造学部	堀 勝彦	国際地域創造学部国際地域創造学科
52	専門科目	口頭英語表現Ⅱ(英語ディベート)	後学期	木5	国際地域創造学部	宮平勝行	国際地域創造学部国際地域創造学科
53	専門科目	物理数学Ⅳ	後学期	水2	理学部	稲岡 毅	理学部物質地球科学科
54	専門科目	天文学序説	後学期	火3	理学部	松本 剛	理学部物質地球科学科
55	専門科目	物理化学Ⅳ	後学期	火1	理学部	漢那 洋子	理学部海洋自然科学科
56	専門科目	物性物理化学	後学期	火2	理学部	玉城 喜章	理学部海洋自然科学科
57	専門科目	熱帯生物生産学概論	後学期	火5	理学部	池田 譲	理学部海洋自然科学科
58	専門科目	確率及び統計	後学期	水1	工学部	小野尋子	工学部工学科
59	専門科目	画像処理	後学期	木2	工学部	長山 格	工学部工学科
60	専門科目	緩和ケア特論	後学期	木5	医学部	照屋 典子	医学部保健学科
61	専門科目	緩和ケア特別演習	後学期	木6	医学部	照屋 典子	医学部保健学科
62	専門科目	進化生態学	後学期	水1	農学部	辻 瑞樹	農学部亜熱帯農林環境科学科
63	専門科目	熱帯エネルギー作物学	後学期	木2	農学部	諏訪 竜一	農学部亜熱帯農林環境科学科
64	専門科目	環境土壌学	後学期	金1	農学部	金城 和俊	農学部亜熱帯農林環境科学科
65	専門科目	森林保護学	後学期	木3	農学部	亀山 統一	農学部亜熱帯農林環境科学科

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・国際法政学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	平和論 (琉01)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人 阿部小涼 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	(学年歴を参照のこと) (前後期とも 火 曜日・ 4 時限目)
授 業 時 間	14:40 ~ 16:10
開 催 会 場 (教 室)	共1-217
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10 人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 平和とはなにか、基礎的な理論を通じて理解を深めます。同時に平和学の対象となる具体的な事例、直接的暴力と構造的暴力を平和学の視点で考察します。	
受講者への連絡方法	電子メール、掲示板
備 考	複数学部の教員によるオムニバスの授業です。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間観と教育(人20)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月8日 (月曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2号館 305教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 世界中で注目されているシュタイナー教育を、その基盤にある人間観と関連づけながら紹介します。地域や文化を超えて広がっており、シュタイナー教育を実践する学校は世界中で1000校を超えています。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡はEメールで行います。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間関係論 (人 12)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 8日 (月曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2-205教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 人間の発達, パーソナリティ論, 社会行動, 心の病とその対処などの概説を通して, 自己と他者, 対人関係, 社会生活についての理解を心理学的に深めることを目的とする。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブフランス語Ⅰ(外307)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)、宮里厚子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 火・金曜日 2時限
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共3－405(火) 共3－301(金)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業は二つのクラスに分けて、金曜日のクラスは主に文法を、火曜日のクラスは主に会話を目的とします。こうして、フランス語会話に役立つ基本的な語彙や文法を身につけられます。	
受講者への連絡方法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	スペイン語入門 I (外401)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	鈴木正士(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育等3号館204教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	3人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) スペイン語を始める学習者が学ぶ基礎的な文法事項を段階的に学ぶクラスです。 スペイン語という西洋語を学ぶことでヨーロッパ文化の本質について考えていきたいと思 います。	
受講者への連絡方法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブスペイン語 I (外407)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	福地恭子(国際地域創造学部 講師) 上地リリア(共通教育等科目 非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 8日 (火曜日・金曜日 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟3号館305教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) スペイン語の初級レベルの「読み・書き・聞き・話す」能力を身につけることを目的とします。週2回のクラスで、火曜日は文法、金曜日は会話や発音が中心となります。	
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。 福地恭子【kyokoafu@ll.u-ryukyu.ac.jp】
備 考	週2回の講義です。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科(物理系)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学入門I(転11)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	安田 千寿(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-101教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容	物の落下など身の回りで起こっている現象を力学の法則から論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して力学の基礎的事項から解説します。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	Eメールで行う。Eメールを使えない場合は相談に応じる。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学I (先31)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月12日 (金曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) ニュートンの運動方程式に基づき、物体の運動を論ずる。また、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則について学ぶ。単振動、重力場での物体の運動、万有引力による惑星、彗星の運動などを扱う。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学II、数学III、物理を履修していることが望ましい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	天体観測を通して学ぶ宇宙 (自62)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	調整中 (現在のところ、8月19日(月)の週の実施を予定)
授 業 時 間	4日間実施する。各回2校時(2・3限または3・4限)。
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 国立天文台との連携授業であり、宇宙・銀河系・恒星・太陽系天体などの天文学の基礎や最新の研究成果をわかり易く解説し、宇宙に関して理解を深めることを目的とする。8月中旬の4日間、各回3時間実施する。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	日程・講師については現在、国立天文台と調整中であり、6月頃公表する。那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海洋の科学 (B自03)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (水曜日・7時限目)
授 業 時 間	19:40～21:10
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 沖縄県に住む我々「海洋民族」は海からさまざまな恩恵を受けている。反面、海は災害を引き起こすなど「怖い」存在でもある。この授業は、海のいろいろな側面について学び、海への理解を深めることを目的とする。	
受講者への連絡方法	休講通知等については、初回及び各回の授業で予告するが、希望者には電子メールで通知する。
備 考	那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海洋の科学 (自03)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (火曜日・1時限目)
授 業 時 間	08:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 沖縄県に住む我々「海洋民族」は海からさまざまな恩恵を受けている。反面、海は災害を引き起こすなど「怖い」存在でもある。この授業は、海のいろいろな側面について学び、海への理解を深めることを目的とする。	
受講者への連絡方法	休講通知等については、初回及び各回の授業で予告するが、希望者には電子メールで通知する。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	化学 I (先41)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 8日 (月曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20 ~ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2-301教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、大学理系の初年次学生向けの一般化学である。化学現象の原子・分子レベルでの統一的・普遍的理解のために必要な基本的原理およびその適用等を概説する。主に原子・分子の構造や化学結合について講義する。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mailで行うか、講義時間中に行います。
備 考	

平成 3 1 年 度 琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学 部 ・ 学 科	工学部・工学科・建築学コース
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境エネルギー計画 (総 7 2)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	堤 純一郎 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4 月 9 日 (火曜日 ・ 5 時限目)
授 業 時 間	火曜日・5 時限目 1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0
開 催 会 場 (教 室)	工学部 2 号館 1 1 7 教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	1 0 人
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り 1 0 0 文 字 以 内 で お 願 い し ま す) この科目の内容は以下の3点。(1)地球環境問題とエネルギーの関係、(2)生活環境の場となる建物や都市における消費エネルギーの実態、(3)新エネルギー及び省エネルギーに関する最近の取り組み。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	受講者へのすべての連絡はEメールにて行います。担当教員のメールアドレスは、 jzutsumi@tec.u-ryukyu.ac.jp
備 考	担当教員は、沖縄県地球温暖化対策実行計画協議会会長。今年度で定年退職の予定なので、この授業も今年度が最終講義。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	グローバル教育支援機構・キャリア教育支援部門 (キャリア教育センター)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海外キャリア形成入門 (C22)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	遠藤 聡志 他 (センター長・教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	調整中 (8月中旬の連続する3日間、各日1～5時限目)
授 業 時 間	08:30～17:50
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 沖縄県内で海外との取引を行う企業の経営者や、アジア各国でビジネスを展開する起業家を招き、講話と討論を通して、海外就職も視野に入れた進路決定のヒントを得る。夏期集中講義として、3日間に亘って行う。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	日程・講師については現在調整中であり、6月頃公表する。 那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・琉球アジア文化学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉球史概論 I (琉史111)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	豊見山和行(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月8日 (月曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟114
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	20人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 先史時代から近代初頭までの琉球史を個別テーマをオムニバス方式で通史的に講義する。	
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。
備 考	安里進・豊見山和行ほか『沖縄県の歴史』(第2版、2010年、山川出版社)を事前に入手しておいて下さい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部国際法政学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	基礎労働法(LAW281)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	戸谷義治(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (火曜日・ 4時限目)(予定・現在授業編成中)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 労働法の基本的な構造を確認した上で、会社と労働者との雇用契約関係及び、賃金・労働時間等の労働条件最低基準に関する個別的労働関係法を講義する。	
受講者への連絡方法	必要なことは基本的に授業中に通知する。希望があればメールでの連絡等、相談に応じる。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	カウンセリング演習 (心 理 3 1 3)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日 (木曜日・ 1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟111教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) カウンセリングの基礎理論の概要を理解した上で、カウンセリングの方法を学習する。特に、マイクロカウンセリングの考え方にしたがって、基本的な面接技術の修得を目的とした演習(ロールプレイ)を行う。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	エコツーリズム論・基礎(観光223)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	大島 順子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日 (木曜日・3限)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	文講112室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) エコツーリズムの発生経緯から展開の矛盾にいたるまでの諸問題を扱いながら、エコツーリズムの現状や問題点、今後の課題、持続可能な観光の実践に繋がる要素について事例を通してアクティブ・ラーニングで学びます。	
受講者への連絡方法	担当教員から受講生への授業資料の配布及び連絡方法として、総合情報処理センター運営によるe-learning(Web Class)を活用します。PCのメールアドレス等を使ってやりとりできる環境を整えて下さい。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	広告論(産業230)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	王 怡人(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月8日 (月曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20-11:50
開 催 会 場 (教 室)	文講111教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この講義の前半では、広告宣伝に関する理論的側面を順次に取り上げて解説します。講義の後半では理論に対する理解をふまえて実際の提案練習(グループワーク)を行ってもらいます。	
受講者への連絡方法	メールによる連絡
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	観光マネジメント論(経営204)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	桑原浩(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月8日 (月曜日、木曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20～17:50
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本科目では、観光者、観光事業者、観光地住民、行政担当者など様々な当事者が、相互に影響しながら成立している観光システム内で行なわれる、主体的な取り組みや、系統的な働きかけを学びます。	
受講者への連絡方法	e-mailで受け付けます。kuwa@tm.u-ryukyu.ac.jp
備 考	第一クォーターだけで開講

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	経済学概論(学共105)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	越野 泰成(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	文講215教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の基礎的な内容を通して新聞やテレビでの経済ニュースや日常生活、社会現象についてケース・スタディを使いながら経済学的に理解することを授業の達成目標としています。	
受講者への連絡方法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	口頭英語表現I(英語スピーチ) (英言331)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	宮平勝行 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 8日(予定) (月 曜日・ 3 時限目)(予定)
授 業 時 間	12:50 - 14:20(予定)
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟3号館305教室(予定)
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	3人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講座では、考える力や説得力を養うパブリック・スピーキングの基本的概念と理論を学び、クラスで英語によるスピーチを発表します。講義は全て英語で行います。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	社会人類学 I (学共214)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲村務(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月18日 (木曜日・ 5時限目)
授 業 時 間	16:20～17:50
開 催 会 場 (教 室)	文講201教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 社会人類学(文化人類学・民族学)の学史および基礎的理論を沖縄奄美・アジアの事例を使って解説する。柳田國男も文化人類学者である。世界中で消滅した民俗学の祖とされた柳田を正しく位置付け直す。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	理科教育法A[1組](理391) 【教育学部及び理学部中高理科免許同時取得者対象】
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	吉田 安規良(教育学研究科 教職実践講座 教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 11日 (木 曜 日 ・ 6 時 限 目)
授 業 時 間	18時00分～19時30分
開 催 会 場 (教 室)	教106(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人程度
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で 願 い し ま す) 中学校ならびに高等学校の理科の教材の取り扱いや指導法ならびにそれに関連する他の事項(例:幼稚園や小学校の理科教育、自然環境教育とのつながり、社会教育、生涯教育)について概説する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	講義に関連する諸連絡(課題、休講)については講義中に連絡することを原則とする
備 考	担当教員の都合により、休講にする際はその前後の週で7限まで(終了21時すぎ)連続して授業を行うことがある(振替分を連続して実施することがある)。 本学の都合により、木曜日以外の平日に木曜日の授業を行うことがある。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	授業技術(教職134)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	吉田 安規良(教育学研究科 教職実践講座 教授)ほか
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 8日 (月 曜日・ 5 時限目)
授 業 時 間	16時20分～17時50分
開 催 会 場 (教 室)	教105(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人程度
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 内容と方法:教師として授業を担当するときに必要な技能や知識を講述する。 達成目標:教師として子どもの前に立ったとき、最低限の技能(板書、所作、指示)について理解し、それができるようになる。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	講義に関連する諸連絡(課題、休講)については講義中に連絡することを原則とする
備 考	本学の都合により、月曜日以外の平日に月曜日の授業を行うことがある。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	生活科教育研究(303475011)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	白尾裕志(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (火曜日・ 5時限目)
授 業 時 間	16時20分～17時50分
開 催 会 場 (教 室)	文系総合研究等302～304教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 生活科教育の考え方について、これまでの生活教育や生活綴り方、生活科の成立の趣旨等を踏まえた実践を通して考えます。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱力学(物物303)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	前野昌弘(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月12日 (金曜日・4時限目)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	理学部A313
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 現代物理学の中でも重要な分野である熱力学を、「仕事」という目に見える量から操作的に「熱」や「エントロピー」の概念を説明していく方向でシミュレーションを取り入れた講義を行なう。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	ホームページ http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/~maeno/td2019
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理数学I (物物203)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日 (木曜日・ 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 線形代数学の基礎として、ベクトル、行列、行列式について学ぶ。とくに、行列の演算、行列式の性質、連立1次方程式の解法(クラメルの公式)、エルミート行列の固有値問題が重要な学習項目である。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学Bのベクトルを履修していることが望ましい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海洋地質学(物地373)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	古川雅英 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月8日 (月曜日・3時限)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 地球科学や環境科学の全般を理解する上で、海域における地質の知識は不可欠である。この講義では、プレートテクトニクスの基礎を含め、海域の地質全般を理解する上で必要となる基礎的事項を解説する。	
受講者への連絡方法	授業時間内もしくは直前・当日の場合はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理化学Ⅱ(海化213)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (火曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50 ~ 14:20
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟202教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は大学の学部化学専攻学生向けの物理化学の講義である。化学平衡や相平衡、溶液など化学が対象とする系を物理学の一分野である熱力学に基づいて理解するための化学熱力学の基本事項やその適用等を概説する。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mailで行うか、講義時間中に行います。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部海洋自然科学科生物系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯生物科学概論(理共205)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人:山崎秀雄(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (火曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20-17:50
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟102室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人以内
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 学内では1、2年次を対象とした生物学の概論講義。生物系で行われている研究内容を軸に、沖縄の生物の面白さや研究の多様性を学ぶことを目的としている。複数の教員によるオムバス形式の講義を行う。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	生態学・環境学(環271)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	辻 瑞樹 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日 (木曜日・ 1 時限目)
授 業 時 間	8:30~10:00
開 催 会 場 (教 室)	農学部 209教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容 個体群、群集、生物多様性、生態系と物質循環の成り立ちを生態学的視点から概観し、持続可能な環境利用に関する理解を深める。個体群から地球規模までの幅広いスケールの現象を、基礎・応用両面の問題を取りまぜ扱う。	
受講者への連絡方法	緊急時以外はシラバスや掲示板
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	作物学(環212)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	諏訪竜一(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	農学部 207教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授 業 内 容	農学の基幹分野となる作物学の基礎概念を教授する。取り扱う作物は、人類の活動の源となる食糧として用いる「食用作物」を主とし、サトウキビやその他種々のエネルギー利用用途としての「工芸作物」等についても取り上げる。
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	土壌環境科学(環)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	金城和俊(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月12日 (金曜日・ 3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	農学部 102教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 農業および環境分野における土壌の役割、さらに酸性土壌や赤土流出など、沖縄に分布する土壌の問題点なども紹介・解説する予定である。授業は板書や液晶プロジェクターを用いて行います。	
受講者への連絡方法	電話:098-895-8778、E-mail : wa614@agr.u-ryukyu.ac.jp
備 考	開講日および不明な点は上記のアドレスに問い合わせをお願いします。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	森林微生物学(環353)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	亀山統一(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20-11:50
開 催 会 場 (教 室)	農117教室(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容	森林やマングローブの樹木、都市の植栽木を対象に、病害など樹木と真菌類などの微生物との相互関係についての基礎的な知識を習得する。樹木の器官・組織の形態・構造や生理の特徴、樹木寄生微生物の分類や形態・生活史、人間活動を含む環境条件をなす因子やその特性について学ぶ。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	メール、農学部掲示板への掲示による
備 考	森林保護学(環258)を聴講済みであるか、または、植物病理学・樹木医学の基礎知識をお持ち であることが望ましい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	心の科学 (人11)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月7日 (月曜日・ 1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1－118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 心理学の歴史と研究方法, 感覚と知覚, 記憶, 学習, 思考と言語, 情動と動機づけ, 生理心理学の各領域について, 研究例を概観することを通して心理学について理解を深める。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブフランス語Ⅱ(外308)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)、宮里厚子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 火・金曜日 2時限
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共3－403(火) 共3－205(金)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業は二つのクラスに分けて、金曜日のクラスは主に文法を、火曜日のクラスは主に会話を目的とします。こうして、フランス語会話に役立つ基本的な語彙や文法を身につけられます。	
受講者への連絡方法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(共通教育等科目)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブスペイン語Ⅱ(外408)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	福地恭子(国際地域創造学部 講師) 上地リリア(共通教育等科目 非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (火曜日・金曜日 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟3号館305教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) スペイン語の初級レベルの「読み・書き・聞き・話す」能力を身につけることを目的とします。週2回のクラスで、火曜日は文法、金曜日は会話や発音が中心となります。	
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。 福地恭子【kyokoafu@ll.u-ryukyu.ac.jp】
備 考	週2回の講義です。 なお、受講資格はインテンシブスペイン語Ⅰを履修した方となります。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間と物理学(自22)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	與儀 護(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 2日(予定) (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-201教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) この講義では物理学の発展の歴史と現代社会の関わり合いについて講義を行う。それに加えて、様々な電磁波(電波、可視光線、X線など)の性質とその応用例について、物理学と現代エレクトロニクスの関連などについても概説する。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科(物理系)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学入門Ⅱ(転12)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	安田 千寿(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-101教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容 熱、波、電気、磁気に関する疑問を論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して、熱、波、電磁気学の基礎的事項から解説します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	Eメールで行う。Eメールを使えない場合は相談に応じる。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学Ⅱ (先32)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月4日 (金曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 電磁気学の基礎として、静電場、定常電流、電流と磁場について学ぶ。具体的内容は、電場、磁場に関するガウスの法則、誘電体中の静電場、キルヒホッフの法則、アンペールの法則、ビオ・サバールの法則などである。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ、物理を履修していることが望ましい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科／地域連携推進機構
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ(星空案内人養成講座) (琉99)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛(教授)／宮里大八(特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月5日(土) 14時～
授 業 時 間	10月5日～11月30日 毎週土曜日午後 2～4時間 但し11月23日(休日)を除く 計8回
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	30人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 星空案内人(星のソムリエ®)は、地域で星空や宇宙の世界、またその楽しさを教えらる人である。本科目は「星空案内人資格制度運営機構」の定める基準に基づいて開講され、修了により資格取得が可能である。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	講義科目については、那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う予定。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科 生物系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉球の自然保護(琉23)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	横田昌嗣(教授)他、約8名
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 3日 (木曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20~17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人以内
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 専門分野の異なる教員がそれぞれの専門分野について講義を行い、沖縄の自然環境の特色について理解を深め、近年の著しい自然環境の破壊の現状と要因を知り、今後の沖縄の自然環境の保全対策方法について議論を深める	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールまたはWebclassを用いて行う。
備 考	世話人のメールアドレス:yokota@sci.u-ryukyu.ac.jp

平成 3 1 年 度 琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学 部 ・ 学 科	工学部・工学科・建築学コース
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境影響評価概論 (総 7 3)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	堤 純一郎 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	1 0 月 1 日 (火曜日 ・ 5 時限目)
授 業 時 間	火曜日・5 時限目 1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0
開 催 会 場 (教 室)	工学部 2 号館 4 1 3 教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5 人
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り 1 0 0 文 字 以 内 で お 願 い し ま す) 大規模な土地の改変を伴う建設事業による自然環境や生活環境への影響を評価し、より良い事業に導くことを環境影響評価という。その基本的な考え方、法制度、評価するための技術の概要について論じる。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	受講者へのすべての連絡はEメールにて行います。担当教員のメールアドレスは、 jzutsumi@tec.u-ryukyu.ac.jp
備 考	担当教員は、沖縄県環境影響評価審査会副会長。今年度で定年退職の予定なので、この授業も今年度が最終講義。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部国際法政学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	応用労働法(LAW283)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	戸谷義治(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (火曜日・ 4時限目)(予定・現在授業編成中)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 労働組合法を中心に労働組合に関する法律、判例を講義する。	
受講者への連絡方法	必要なことは基本的に授業中に通知する。希望があればメールでの連絡等、相談に応じる。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部 琉球アジア文化学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉球史概論Ⅱ (RR122)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	大浜 郁子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月3日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 215室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本講義は、日本の沖縄と植民地台湾への「近代化」の比較や継続する「沖縄問題」の連関という視角を通して、日本近現代史とも中国近現代史とも異なる沖縄近現代史の特質を幅広い視野から考察する為の入門講座である。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	非行と犯罪の心理学 (心理205)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月4日 (金曜日・ 1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟114教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 犯罪・非行の定義や発生状況の概要を理解した上で, 犯罪・非行についての諸理論を概説する。また, いくつかの非行・犯罪の種別の特徴についても学習する。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境教育論(観光T509)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	大島 順子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 11日 (金曜日・ 2時限目)
授 業 時 間	10:20 ～ 11:50
開 催 会 場 (教 室)	文講111教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 持続可能な社会づくりをめざし、広義な環境を取り巻く諸問題をグローバルかつローカルな視点で関連性(つながり)を意識しながら学び、その解決策をアクティブ・ラーニングで探り、行動へのアプローチを導きます。	
受講者への連絡方法	担当教員から受講生への授業資料の配布及び連絡方法として、総合情報処理センター運営によるe-learning(Web Class)を活用します。PCのメールアドレス等を使ってやりとりできる環境を整えて下さい。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	マーケティング入門(B学共112)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	王 怡人(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (火曜日・6時限目)
授 業 時 間	18:00-19:30
開 催 会 場 (教 室)	文講114教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) この講義は、企業のマーケティング活動を「製品」、「価格」、「販売ルート」、「販売促進」といった4つの部分に沿って、事例を取り上げながらわかりやすく解説します。	
受講者への連絡方法	メールによる連絡
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	社会科学のためのゲーム論入門 (B学共104)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	堀 勝彦(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 2日 (水 曜日・ 6 時限目)
授 業 時 間	18:00～19:30
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟114室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) ゲーム理論は複数の人々が意思決定に関して相互作用する状況を分析する理論で、様々な分野で有用な思考ツールとして定着しつつあります。本講義はゲーム理論の基礎と現実社会で生じる状況の分析について学びます。	
受講者への連絡方法	掲示板・WebClass・電子メール
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	口頭英語表現Ⅱ(英語ディベート) (英言332)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	宮平勝行 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 3日(予定) (木 曜日・ 5 時限目)(予定)
授 業 時 間	16:20 - 17:50(予定)
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟3号館305教室(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	3人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本講座では、現代の様々な社会問題について、「賛成」と「反対」の両方の立場から問題点を分析し、論理的に自分の意見をまとめ、討論する能力を磨きます。講義は全て英語で行います。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理数学IV (物物322)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月2日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) この授業科目の内容はフーリエ解析であり、具体的にはフーリエ級数、フーリエ積分、フーリエ変換である。変化・変動する現象を、正弦波、余弦波、あるいは複素数による波に分解して解析する方法について学ぶ。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学Ⅲ、とりわけ三角関数の積分を履修していることが望ましい。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	天文学序説 (物地278)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (火曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	理学部C棟327教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 天文学の基礎となる位置天文学(天体の位置の表現法など)と天体力学(天体の間に働く力、天体の運動など)の入門編。授業では解説の他、適宜演習を取り入れ、これらの分野の理解を深める。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理化学 IV (海化219)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (火曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30 ~ 10:00
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟202教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、大学の学部化学専攻学生向けの物理化学の講義である。化学反応(化学変化)を理解するために必要な基本的な考え方や原理およびその適用等を概説する。主に化学反応速度論と化学平衡についての講義を行う。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mailで行うか、講義時間中に行います。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物性物理化学(海化330)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	玉城 喜章 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20 ~ 11:50
開 催 会 場 (教 室)	理学部本館B135教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 原子が規則的に並んで形づくられる結晶および、日常生活で接する物質の興味深い形態であるコロイドは、物質の性質を理解するための重要な研究対象である。結晶とコロイドの性質を理解するための概念を学ぶ。	
受講者への連絡方法	連絡事項は講義の際、教室で伝える。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部海洋自然科学科生物系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯生物生産学概論(理共206)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人:池田 譲(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (火曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20-17:50
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟102室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人以内
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 琉球列島の水生生物(主として海産生物)に関する最新の多様な研究を紹介し、生物学における位置づけと他の応用分野との関連等について概説する。講義は海洋自然科学科生物系教員がリレー形式で担当する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成30年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	工学部工学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	確率及び統計 (工共 2 1 3)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	小野 尋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月3日 (水曜日・1時限目(8:00-10:00 (2H)))
授 業 時 間	30分追加して、8:00-10:00の開催としています。
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟4-505
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人
授業内容 (冊子印刷の関係により 100文字以内 でお願ひします) 講義は平均や分散など、初歩的なところから始まり、終了時には統計検定2級受験レベルになります。1) ニュースなどのデータを独自に検証したい人、2) 多変量解析ソフトは使うが基礎的な理論を学びなおしたい人、等	
受講者への連絡方法	
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	工学部工学科・知能情報コース
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	画像処理 (情326)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	長山 格 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	(後期開講の講義です) 月 日 (木 曜日 ・ 2 時 限 目)
授 業 時 間	90分程度
開 催 会 場 (教 室)	工学部1号館321教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人
授業内容（冊子印刷の関係により 100文字以内 でお願ひします） 本講義では画像処理の理論と技術について基礎から応用まで幅広く解説する。教科書の図表を参照するので各自指定教科書を準備すること。なお、JAVAの練習課題を行うがプログラミングの説明はしないので要注意。	
受講者への連絡方法	掲示または電子メールによる。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	保健学研究科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	緩和ケア特論()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	照屋 典子(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	11月 21日 (木 曜日・ V時限後半～)
授 業 時 間	17:20～18:50(90分)
開 催 会 場 (教 室)	医学部保健学科棟 3F313室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 終末期医療に携わる看護師に必要な知識習得のための教育プログラム(ELNEC-J)を活用し、がん患者、家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛症状の緩和を目的とした看護援助について教授する。	
受講者への連絡方法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	※本講義の受講者は、九州がんプロ養成プラン「がん看護エキスパートナース養成コース」を履修するものに限る。「緩和ケア特別演習」と合わせて受講すること。なお、講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	保健学研究科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	緩和ケア特別演習()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	照屋 典子(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	11月 21日 (木 曜日・ VI時限後半～)
授 業 時 間	19:00～20:30(90分)
開 催 会 場 (教 室)	医学部保健学科棟 3F313室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 「緩和ケア特論」同様、ELNEC-Jの内容を踏まえた上で、診断から在宅医療など様々な場面で切れ目なく緩和ケアが提供されるための看護援助方法について、演習や事例検討を取り入れ、実践力の強化を図る。	
受講者への連絡方法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	※本講義の受講者は、九州がんプロ養成プラン「がん看護エキスパートナース養成コース」を履修するものに限る。「緩和ケア特論」と合わせて受講すること。なお、講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	進化生態学(環272)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	辻 瑞樹(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月2日 (水曜日・ 1 時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	農学部 102教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容 生物進化の正しい理解は、農林水産業だけでなく保全や観光産業も含め生物資源の有効利用のためにも重要である。本講義では進化生態学(行動生態学・社会生物学)の基本概念を、主に動物の事例を引用しながら、体系的に解説する。	
受講者への連絡方法	緊急時以外はシラバスや掲示板
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯エネルギー作物学(環317)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	諏訪竜一(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月3日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	農学部 102教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授 業 内 容	①導入部分において、エネルギー作物の位置づけ、その利用や社会的な背景についての講義を行う。 ②植物資源のエネルギー化(バイオエタノール、セルロースのエタノール化、バイオディーゼル、直接燃焼および原料の改質、その他の技術等)の原理について説明を行う。
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境土壌学(環274)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	金城和俊(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月4日 (金曜日・ 1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	農学部 102教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授 業 内 容 基礎的な土壌学について主に解説し、農業分野および環境分野における土壌の役割についても解説する。 授業は板書や液晶プロジェクターを用いて行います。教科書などは特に指定はしません。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	電話:098-895-8778、E-mail : wa614@agr.u-ryukyu.ac.jp
備 考	開講日および不明な点は上記のアドレスに問い合わせをお願いします。

平成31年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	森林保護学(環258)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	亀山統一(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月3日(予定) (木曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50-14:20(予定)
開 催 会 場 (教 室)	農202教室(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	7人
授 業 内 容 樹木の病害とその流行のしくみについて概論する。本科目では、宿主樹木の形態と成長のしくみ・水分通道などの生理的な特徴をまずよく学び、その上に立って、樹木全体が劇的に枯死する流行病を数種類取り上げて、カビやセンチュウなどの病原生物の特徴や、流行病が発生する自然的社会的条件について学ぶ。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	メール、農学部掲示板への掲示による
備 考	開講日程、教室、シラバスは9月に確定する

地域連携推進機構運営会議 委員名簿

(平成30年10月12日時点)

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 (理事・副学長(地域連携・地域医療・ キャンパス移転担当))	す が は ら かずひろ 須加原 一博	1号委員	議長
2	副機構長 兼 産学官連携部門長 (副学長・副理事(産学官連携担当))	おく ひろすけ 屋 宏典	2号委員	議長代行
3	地域連携企画室長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	3号委員	
4	生涯学習推進部門長 (人文社会学部 教授)	えんどう みつお 遠藤 光男	4号委員	
5	産学官連携部門 准教授	たまき おさむ 玉城 理	5号委員	専任教員
6	生涯学習推進部門 准教授	しばた さとし 柴田 聡史	5号委員	専任教員
7	地域連携企画室 特命准教授	こじま はじめ 小島 肇	6号委員	特任教員
8	地域連携企画室 特命准教授	しまぶくろ あきみち 島袋 亮道	6号委員	特任教員
9	地域連携企画室 特命准教授	はたなか ひろし 畑中 寛	6号委員	特任教員
10	地域連携企画室 特命准教授	みやざと だいや 宮里 大八	6号委員	特任教員
11	産学官連携部門 特命准教授	しもじ みさ子 下地 みさ子	6号委員	特任教員
12	生涯学習推進部門 特命准教授	く が むつこ 空閑 睦子	6号委員	特任教員
13	産学官連携部門 教授 (熱帯生物圏研究センター)	あらかわ たけし 新川 武	7号委員	併任教員 (任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日)
14	産学官連携部門 教授 (工学部)	せ な は いずる 瀬名波 出	7号委員	併任教員 (任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日)
15	総合企画戦略部長	にった きなえ 新田 早苗	9号委員	
16	総合企画戦略部 地域連携推進課長	きんじょう とおる 金城 徹	10号委員	